委員会の動き

○教育民生常任委員会

教育民生常任委員会調査報告書　　教育民生常任委員長　西村　正尚

平成25年６月４日に文化財に関する調査、大豊町すこやか子育て基金条例の原資（町有地）の調査を行った。

寄贈された丸亀市にある町有地

文化財として、瀬戸内海歴史民俗資料館を調査した。当館は、瀬戸内海が一望できる五色台の景勝地にあり、石積みの風景のある建物が周囲の自然と調和、昭和50年には日本建築学会賞を受賞し、平成10年には公共建築百選に選定されている。

資料の収集や調査研究、展示活動は、瀬戸内地方を構成している11府県全域を、その対象とし、全国的にも稀有な広域資料館としての特色を持っており、これまで瀬戸内海地域の漁撈（ぎょろう）用具や船大工用具など5,656点が国重要有形民俗文化財の指定を受け、特色ある瀬戸内地方の暮らしと文化について紹介している。

当館の職員は、過去50人であったが現在は５人と激減、一方入場料は無料で、年間の維持管理費は約2,000万円を要し、他の資料館と同様に文化財を適切に管理するには多額の管理費に苦慮している。

大豊町すこやか子育て基金条例の原資（町有地）は、本町岩原出身で丸亀市に在住していた篤志家故下村亀博氏から、未来を託す児童生徒が勉学に励み、健やかに育つ教育環境の整備を図りたいとの意思に基づき、その浄財を原資（宅地1,598.91平方メートル）として、大豊町すこやか子育て基金を平成21年12月に設置している。

この土地は、平成21年５月25日に取得し、現在、四国名鉄運輸㈱に賃貸し、適切に管理されており、所期の目的どおりに生かされている。

委員会の動き

○総務産業建設常任委員会

総務産業建設常任委員会調査報告書　　総務産業建設常任委員長　佐藤　徳治

６月３日に有機農業に関する調査を行った。

杉地内タマネギ有機栽培調査

本町では、県内に10年先行して高齢化が進展しており、今後、さらに人口の自然減や少子高齢化が見込まれている。こうした中、集落では、それぞれ空洞化や担い手不足などの問題が顕在化しており、集落の存続さえ危ぶまれる状況下にある。

今回の調査は、県内外からのＩターンによる新規就農者がトマトなど有機栽培をしている６農家と大豊ゆとりファームの研修生によるエコ野菜（クルベジ）栽培を調査した。

Ｉターンで一番困ったことは、農地付きの空き家があってもなかなか貸していただけなく、就農するまで数年の期間を要したＩターン者もいる。

６農家ではトマトを主たる作物としており、営農準備段階において、県単事業でＡＰハウスを整備し「初期投資の軽減が図られ」、担当者には大変サポートを受け感謝をしていた。中でも３農家は連携しトマトを出荷しており、冷涼地を生かし、さらに仲間を増やして、日本一の「大豊トマトの産地として」復活させたいという力強い言葉を聞き、担い手農家として本町の農業振興に尽力していただけるものと確信を持った。

移住をするということは、人生を賭けた大きな決断を必要とするものであり、その志を叶えることができるよう関係機関が連携し、さらなる支援策を講じる一方、Ｉターン者の就農段階でのさまざまな悩みを聞き国や県に政策提起を望む。

住民の声

林業で元気な町を期待する

産業とは生産があって消費がある。それがどうだろう。大豊の山に植えられた植林は、60年も70年になっても買い手がなく毎年成長を続けている。

戦前は各戸に飼われているニワトリが鳴き、麦やトウモロコシを栽培し、食生活は自給自足であった。その後、タバコ、ミツマタ、コウゾ、養蚕、和牛の飼育、植林が行われた。農産物を売って食料を買う食生活が断ち切れ、過疎になっていく現状ではないか。

生産ばかりの大豊の林業は産業の仲間外れである。生産があって消費される大豊の産業にしていくことが、山また山の大豊の使命ではなかろうか。生命の樹を植え、知恵の樹を植えて生産し、潤わなければならない。これからの産業行政に期待し、恵まれた自然環境の中で、健康に勝る宝はない。自分の食生活と健康に自信を持って生活ができるよう自給に心がけましょう。

大豊町立野　山中　梅香

編集後記

じめじめとした梅雨も明け夏本番になり、本格的な暑さになりました。

私は２年前から大豊町中学校柔道部外部指導者として、生徒と一緒に汗を流し稽古に励んでいます。20年前には熱中症という言葉はあまり世間には知られていませんでしたが、特に室内スポーツとしてリスクが高く、熱中症には細心の注意を払っています。厳しい練習に生徒たちが必死に取り組む姿や日々成長していく姿にやりがいを感じています。

さて、広報編集特別委員会に所属して早くも３年目を迎えました。議会広報の基本姿勢は、執行に対する自主性・議員の自主編集・議事公開の徹底・住民参加です。編集の技術も徹底して住民の目線で、硬いお役所文書ではなく、平易で分かりやすい見出しと議事の文書、レイアウトなどの紙面づくりに努めます。

記　小川　智也

広報編集特別委員会

委員長　三谷幸一郎
副委員長　小川　智也
委員　前野　由和
委員　佐藤　徳治
委員　都築　正光

【ご意見やご感想は】
大豊議会事務局
電話72―0450まで